

## ◇研究助手報告◇

## 『釋淨土群疑論』諸本の研究

村上真瑞

『釈浄土群疑論』にはいかなる版本、写本が現存するか調査しそれらを年代別に整理していかなる違いがあり、互いどのような関係にあるかを考察してみたいと思う。

『釈浄土群疑論』宝永版巻第七の刊記には義山によって次のように記されている。

今依延応寛元建長寛永印本及古徳書写教本以為校讎譌從正新成一本若其有疑則關焉而俟後賢之是正耳

宝永二歳次乙酉十二月八日

洛東華頂釈義山書<sup>①</sup>

これによれば、義山が宝永二年（一七〇五）に開版した当時、過去において延応（一二三九～一二四〇）、寛元（一二四三～一二四七）、建長（一二四九～一二五六）、寛永（一二六二～一二六四）の四回の開版があったことが伺われる。この中で、現存するものは、建長版、寛永版、宝永版の三本で、延応版、寛元版は、すでに散佚して現在見ることはできない、ただし、『浄土教文化史論』によると、

68 釈浄土群疑論第五 懐感 京都市左京区 禅林寺藏

鎌倉時代刊  
（表紙墨書） 沙門真恵

○『京都大蔵会第二回展観目録』所出<sup>②</sup>と記され、『大蔵会展観目録』によると

111 釈浄土群疑論第五 一冊 永観堂藏

表紙ニ「沙門真恵」ノ墨書アリ<sup>③</sup>

と記されるように、鎌倉時代の版本第五巻だけではあるが禅林寺に存在することが解る。しかしこれが延応、寛元、建長のどの版にあたるのか、またはそれ以外のものなのかについては明らかではない。

このほかに、大正大学図書館に桑誉上人書写による『釈浄土群疑論』が存在する。この本については、金子寛哉氏がすでに、昭和六三年九月一五日に日本宗教学会において研究発表をされている。それによるならば、桑誉上人（了的）書写本は、存応と了的との係わりから考えて、一六〇八年から一六一六年の間に書写されたものであり原本は古体を伝え寛永版にも先行するものであると結論されている。

以上四本の版本、写本の他万治版が現在見ることができ。今回は建長、桑誉、万治、宝永の四本を対照しながらその関係について考察していきたい。まず建長版については、次のような資料に現わされている。『浄土教版の研究』によると

17 建長二年版群疑論 六帖 粘葉綴

（図版第一四）

京都市 久原文庫 藏

（刊記）建長二年庚戌 季夏日 願主比丘往成

本書はつぶさには「釈浄土群疑論」と云い、唐代の懐感禪師の著で、浄土教中国撰述の祖釈として重ぜられている書である。前二版と同じく比丘往成の開版で、その開版三種のうち本書は最後に開梓されたゆえか書体最も優麗である。東京の正大学にある同版のものは浄土宗宗室に指定されている。この久原本（一二五〇年版）は古経堂の蔵印がある。惜しいことは第四巻と第五巻の後半は散佚している。と記され、『浄土教文化史論』によると、

67 釈浄土群疑論 懐感 京都市豊島区大正大学藏

建長二年刊 粘葉綴 七巻七帖 半面六行 一行十七字詰 浄土宗宗室  
（刊記）建長二年庚戌 季夏日 願主比丘往成

○この本京都市古市堂文庫に古経堂印のある一本あるも惜しいかな第四、五巻の後半を逸脱す。

と記されていることから少なくとも建長版は二部現存することとなるのである。そこで実際調べてみると、京都の久原文庫本は、すでに久原文庫にはなく、東京都世田谷区上野毛にある大東急記念文庫に納められていることが判明した。そこで『大東急記念文庫書目』によると、

釈浄土群疑論 七巻（巻四・六・七欠）唐懐感 建長二刊

（鶴飼徹定旧蔵）四帖 二五函 六三架一〇八七号<sup>④</sup>

と記されている。今回実際に大東急記念文庫へ足を運び建長版を調査した結果、散逸部分は、三巻の前半一部、四巻全部、五巻後半一部、六巻後半一部、七巻前半一部であり、全く散逸してみることのできないものは、四巻だけであることが判明した。今回資料として他の諸本と対比して示すことができた。

次に浄土宗宗室に指定されている大正大学蔵の建長版について調べてみたが、散逸して現在見ることができないことが判明した。貴重な文化財であるだけに非常に残念である。因みに大正蔵経の『釈浄土群疑論』原本は、「建長二年刊小野玄妙氏蔵本」であるとされていることから、大正蔵経編纂時においては、完全な版本が現存していたということができよう。したがって、現在建長版の全貌を見ようとするならば、大

正藏經に載せられている『釈浄土群疑論』によって見ることができるといえよう。次に大正大学図書館蔵桑誉上人的書写による『釈浄土群疑論』については、貴重な原本を見せて頂き、マイクロフィルムによってその全貌をコピーすることができた。これも今回資料としてのせることができた。

最後に寛永版と宝永版については、宝永版は私の手元に原本があったので原本より対比して資料を制作することができたが、寛永版は見ることができなかった。かわりに無刊記の版本で佐々木求巳氏によれば万治二年以前の開版であるとされているものが手元にあったので対比することができた。

以上四本を対比して一覧表を制作してみたが、概説的にいうならば、建長版と万治版とは非常に共通部分が多いといえることができる。それに対して、桑誉書写本については、金子寛哉氏は、古本の形態をとっている指摘されていたが、桑誉書写本より後に編纂された万治版の方がより建長版に近いことも見出される。また、桑誉書写本の第六巻の一部には、現存する『釈浄土群疑論』では考えられないような書き間違いとも言い難い相違が見出された。この相違は、本文の順番が突然入れ違っているのである。文書のすべては有り脱落部分はないのであるがなぜこのような文章になるのか理解し難いことである。しかしこの本は、大本山増上寺桑誉了の書写によるものであり一字一句誤りなく書写したものであるから間違いであるというとはできない。そのような本文を持つ本が伝わっていたと考えた方が正しいであろう。

次に義山については様々な版本書写本を参照しながらも、その中で、多く桑誉書写本の文を採用している。すなわち他本を採用せず桑誉書写本の文を採用した数を私の対照表より調べてみるならば、一卷二十回、二巻十二回、三巻八回、四巻六回、五巻七回、六巻二回、七巻四回、計五十九回採用している。このように比較的多くの文が、桑誉書写本と同じものを採用していることから考察して、桑誉書写本と義山版との間

『釈浄土群疑論』四本対照表

宝永(義山)版(宝永二 1705) 一行一七文字 一丁一六行	万治版(万治二 1639以前) 一行一八文字 一丁一八行	桑誉了の筆(1608~1616) 一行一七文字 一丁一八行	建長版(建長二 1250) 一行一七文字 一丁一二行
法体不可見 文殊師利礼云 大菩薩用平等性智 随其淨心 小行菩薩 而見彼扶根 在 he 受用土	一巻一左 一左 二右 三右 四右 五右 六右	五文字無 文殊師利礼云 大菩薩平等性智 随其淨心 少行菩薩 何見彼扶根 在 he 受用浄土	一巻 一右 二右 二左 三左 四右 五右
		五文字無 文殊師利礼云 大菩薩平等性智 随其淨心 小行菩薩 何見彼扶根 在 he 受用浄土	

に、浄土宗独特の系統が伝わっていたのではないかと推測することができ。しかし義山版については、他の本にまったく見出されないことから、文書上意味の不明なものを単語を付け足して明らかにしたり、經の引用は原本と違っている部分を原本にあわせたり、様々な改変を行っている。従って読みやすくはなっているが、『釈浄土群疑論』のオリジナルな姿は建長版、万治版の方がより明確に示されているといえることができるであろう。

最後に貴重な版本、写本を調査するのに御協力頂いた、大正大学大谷旭雄教授、徳川黎明会竹内直直氏、大東急記念文庫村木敬子女史に感謝して御礼を申し上げる次第である。

註 今回の論文の本論は、『仏教論叢』第三十四号と重複するものであるが、四本対照表の詳細な考察のためには不可欠であるので、あえて載せることとした。なお、『仏教論叢』にはスペース上四本対照表は載せることができなかったため、当論文が最初のものである。

- ① 宝永版『釈浄土群疑論』巻第七刊記
- ② 藤堂祐範著『浄土教文化史論』四〇九頁。
- ③ 昭和五十六年文華堂書店刊『大藏会展観目録』三五〜三六頁。
- ④ 藤堂祐範著『浄土教版の研究』四三頁。
- ⑤ 藤堂祐範著『浄土教文化史論』四〇九頁。
- ⑥ 『大東急記念文庫書目』五一〇頁。
- ⑦ 『大正藏經』四七卷三〇頁脚注。
- ⑧ 佐々木求巳著『眞宗典籍刊行史稿』一八三頁

宝永(義山)版(宝永二 1725)  
一行一七文字 一丁一六行

此之論文

阿難言此界第三炎天  
亦如凡夫  
四天下人等亦得名  
淨土凡夫亦得名  
有寬有狹只如世間  
何者只如如來所變  
既勝欲形  
豈非三界身  
是其界所撰  
而此報業  
變似淨土相現故名  
穢土等是也今此  
如何蓮華藏世界  
經唯說淨不說穢相  
欲生彼故也  
請為開示廣陳  
鑿荒途  
誦者罕知  
作淨穢等相  
同時現淨穢故曰  
仏国敵淨也積曰  
功能能現衆多相  
足指按地  
有何衆生為能生有何淨土為  
人法相此等教  
非一非異  
故教有二門也不可說  
便毀而不持此即  
不畢竟墮於寂滅  
菩薩行雖成就一切諸法  
大品經等雖說  
而汝所引大品經等  
无相之教

万治版(万治二 1659以前)  
一行一八文字 一丁一八行

此論文

阿難言第三炎天  
只如凡夫  
四天下人等亦得名  
淨土凡夫亦得名  
有寬有狹只如世間  
何者亦如如來所變  
既勝欲形  
實非三界身  
是其三界所撰  
而此業報  
變似淨土相現名  
穢土等是今此  
何蓮華藏世界  
經唯說淨不說穢相  
欲生彼故  
請為開宗廣陳  
鑿荒途  
誦者罕知  
作淨穢等相  
同時現淨穢故曰  
仏国敵淨積曰  
功能能現衆多相  
足指按地  
有何衆生為能生淨土為  
人法相此等教  
非一異  
故教有二門不可說  
便毀而不持此即  
不隨於畢竟寂滅  
菩薩行成就一切諸法  
大品經等雖說  
汝引大乘經等  
无相之教

桑葢了的筆(1608~1616)  
一行一七文字 一丁一八行

此之論文

阿難言此界第三炎天  
亦如凡夫  
四天下人等只得名  
淨土凡夫只得名  
有寬有狹亦如世間  
何者只如如來所變  
既勝欲形  
非實三界身  
是其三界所撰  
而此報業  
變似淨土相現故名  
穢土等是今此  
如何蓮華藏世界  
經唯說淨不說穢相  
欲生彼故  
請為開宗示? 廣陳  
鑿荒途  
誦者罕知  
作淨穢等相  
同時現淨穢故曰  
仏国敵淨積曰  
功能能現衆多相  
足指按地  
有何衆生為能生有何淨土為  
人法相此等教  
非一非(行間小文字)異  
故教育二門不可說  
便毀而不持此即  
不(行間小文字)墮於畢竟寂滅  
菩薩行成就一切諸法  
大品經等雖說  
汝所引大品經等  
无相之教

建長版(建長二 1250)  
一行一七文字 一丁二行

此論文

阿難言第三炎天  
只如凡夫  
四天下人等亦得名  
淨土凡夫亦得名  
有寬有狹只如世間  
何者亦如如來所變  
既勝欲形  
實非三界身  
是其界所撰  
而此業報  
變似淨土相現名  
穢土等是今此  
何蓮華藏世界  
經唯說淨不說穢相  
欲生彼故  
請為開宗廣陳  
鑿荒途  
誦者罕知  
作淨穢等相  
同時現淨穢故曰  
仏国敵淨積曰  
功能能現衆多相  
足指按地  
有何衆生為能生淨土為  
人法相此等教  
非一異  
故教有二門不可說  
便毀而不持此即  
不隨於畢竟寂滅  
菩薩行成就一切諸法  
大品經等雖說  
汝引大乘經等  
无相之教

七左  
九左  
一〇右  
一一左  
一一左  
一二右  
一二右  
一四右  
一五右  
一五左  
一六右  
一七左  
一七左  
一九右  
二〇左  
二〇左  
二〇左  
二一右  
二一右  
二二右  
二二左  
二二左  
二四左  
二六右  
二六右  
二七右  
二七右  
二八右  
二八右  
二九右  
二九右

六左  
八右  
八左  
九左  
一〇右  
一〇右  
一〇右  
一二右  
一二左  
一三右  
一三左  
一五右  
一五右  
一六右  
一七右  
一七右  
一七右  
一七左  
一七左  
一七左  
一八右  
一八左  
二〇右  
二〇右  
二〇左  
二一右  
二一左  
二二右  
二二左  
二二左  
二二左  
二二左  
二三左  
二三左  
二四右  
二四右  
二四左

<p>斯言誠可誠也 淨仏国土 宝樹宝池等 既有品類差殊</p>	<p>二九左 二九左 三〇右 三二右</p>	<p>斯言誠可試也 淨国土 宝樹宝池等 既有品類差殊</p>	<p>二四左 二四左 二五右 二七右</p>	<p>斯言誠可誠（イマシメノルピアリ）也 淨仏国土 宝樹宝池等 既有品類表殊</p>	<p>斯言誠可試也 淨仏国土 宝樹宝池等 既有品類差殊</p>
<p>生者為虛誑法相統之相 此之兩經 不成進道 自心變現 見有往來 非關他也 有往來 諸仏所師所謂法也 斯何義耶 雖能所說殊 彼既一一呼召 或上或下論人差別淨土既 三賢十聖住果報 並不得生 通引一切凡愚 捨取一字 三種散善 淨土正因 弘誓願接引衆生 或又誹謗 弘誓願我往生西方 遂使空有願言 或且起行之人 乃觀經下文言 能修淨業 方入花中 穢土中生二陰 說有无也 准知此穢土生天中陰 香飯之氣 疑者說也何故而說經之中</p>	<p>二卷二右 三右 三左 三左 五左 五左 五左 五左 六右 六左 六左 八左 九右 九左 一〇右 一〇右 一〇左 一三右 一三右 一三右 一三右 一七左 一七左 一八右 一八左 一八左 二〇左 二〇左 二二右 二二左 二二右 二二右 二二右 二四右 二四左</p>	<p>生者相統之相 此兩經 非成進道 自心變化 見有往來 非關他也 有往來 諸仏所師所謂法也 斯何理耶 唯能所說殊 彼即一一呼召 或上人人義論淨土既 三賢十聖住果報土 並不得生 引一切凡愚 捨取一字 三種散善 淨業正回 弘誓願接引衆生 又誹謗 弘誓願我往生西方 遂使空有願言 或但起行之人 及觀經下文言 能習淨業 方入花中 穢土中生二陰者 說有无耶 准知穢土生天中陰 香之氣 疑者說而說經之中</p>	<p>二卷二右 二左 三右 三右 四左 五右 五右 五右 五右 五右 五左 五左 七右 七左 八右 八右 八左 八左 九右 一〇右 一〇右 一一右 一一右 一一右 一一右 一一左 一五右 一五右 一五左 一五左 一七右 一七右 一七右 一八左 一八左 一九右 一九左 二〇右 二〇右 二〇左 二〇左</p>	<p>生者為虛誑法相統之相 此之兩經 非成進道 自心變化 見有往來 非關他也 有往來 諸仏所師所謂法也 斯何理耶 唯能所說殊 彼即一一呼召 或上人人義論淨土既（小字） 三賢十聖住果報土 並不得生 引一切凡愚 捨取一字 三種散善 淨業正回 弘誓願接引衆生 又誹謗 弘誓願我往生西方 遂使空有願言 或但起行之人 及觀經下文言 能習淨業 方入花中 穢土中生二陰者（行間小文字） 說有无耶 准知穢土生天中陰 香之氣 疑者說而說經之中</p>	<p>生者相統之相 此兩經 非成進道 自心變化 見有往來 非關他也 有往來 諸仏所師所謂法也 斯何理耶 唯能所說殊 彼即一一呼召 或上人人義論淨土既 三賢十聖住果報土 並不得生 引一切凡愚 捨取一字 三種散善 淨業正回 弘誓願接引衆生 又誹謗 弘誓願我往生西方 遂使空有願言 或但起行之人 及觀經下文言 能習淨業 方入花中 穢土中生二陰者 說有无耶 准知穢土生天中陰 香之氣 疑者說而說經之中</p>

<p>宝永(義山)版 (宝永二 1705) 一行一七文字 一丁一六行</p>	<p>說是一切世間 說或是第二階法 一切願滿 无边无数 其願又熟 或散或丸 有何相貌 既得定往 頗有聖教證知 行者等自親 長寿天難撰也 終淪苦惱 詎劣生或也 何因聞藥師仏 遣八菩薩 恰令得生 豈合弃西方仏号 頭一乘為妙二乘為鹿 初穢後淨自為斯益示現非開</p>	<p>万治版(万治二 1659以前) 一行一八文字 一丁一八行</p>	<p>說是一切世界 說或是第二階法 本願滿 无边无数 其願又熟 或丸 何相貌 即定往 頗有教証知 行者等自親 長寿天難撰 終淪苦惱 詎劣生或 何因聞藥師仏 引八菩薩 恰令得生 豈合弃西方仏号 頭一乘為妙二乘為鹿 初穢後淨非開</p>	<p>桑葢了的筆(1608~1616) 一行一七文字 一丁一八行</p>	<p>說是一切世間 說或是第二階法 本願滿 无边无数 其願又熟 或丸 何相貌 即定往 頗有教証知 行者等自親 長寿天難撰 終淪苦惱 詎劣生或 何因聞藥師仏 引八菩薩 恰令得生(重ね書き) 豈合弃西方仏号 頭一乘為妙二乘為鹿 初穢後淨非開</p>	<p>建長版(建長二 1250) 一行一七文字 一丁一一行</p>	<p>說是一切世界 說或是第二階法 本願滿 无边无数 其願又熟 或丸 何相貌 即定往 頗有教証知 行者等自親 長寿天難撰 終淪苦惱 詎劣生或 何因聞藥師仏 引八菩薩 恰令得生 豈合弃西方仏号 頭一乘為妙二乘為鹿 初穢後淨非開</p>
<p>諸余大徳 亦造五逆逆名是同 雪過於下品下生之日 未有造无間罪 太滅之失也 固執前非 由学不学当根仏法 子不能監 為是第三階人、請開演也 无得滅罪之義 還招過滅之過 皎然无或也 於茲定去留 進退兩開</p>	<p>三卷四右 四左 五左 五左 六右 九右 九左 九左 一〇右 一〇右 一〇左 一一右 一一右 一一右</p>	<p>諸大徳 亦造五逆逆名是同 空過於下品下生之日 未省造无間罪 太滅之失 固執前非 由学当根仏法 子不能監 上的部分小文字 无得滅之義 還招過滅之過 映然无或也 於似定去留 進退兩開</p>	<p>三卷三左 三左 四左 五右 五左 八右 八右 八右 八左 八左 九右 九右 九右 九左</p>				
<p>諸大徳 亦造五逆逆名是同 空過於下品下生之日 未省造无間罪</p>	<p>三卷三左 三左 四左 五右 五左 八右 八右 八右 八左 八左 九右 九右 九右 九左</p>	<p>諸大徳 亦造五逆逆名是同 空過於下品下生之日 未省造无間罪</p>	<p>諸大徳 亦造五逆逆名是同 空過於下品下生之日 未省造无間罪</p>				

欠

且夫大唐ノ邪正浄土也  
三千刹土

无禪師之教

則法藏解行

下凡之下

三階集録並不得生浄土

故知仏可為第三階衆生

之処衆生

大師以慈悲經道滅尽

普教當未運不留普法

又難曰

義惣善惡之人

多少拳惣苞

故僕以為

学多聞得堅固

賢護經第三卷說

仏威神故故令彼等

又第二卷說言

賢護斯諸善男子

十方一切清浄仏土

偏証第三階者

何為彼言弃

還太過太滅

定不得生也

皆有開遮二門

一与濡語

皆歸第一義也

普教不言特留乃是

不得説誦經者

為対此人造斯重罪造已

非本聖教

若如禪師

有六十八億那由他人

住邪徑

与過去久遠善根純熟故能一念即  
得罪滅也四功德勝者前小乘行但

一二右

一二右

一二右

一二右

一二左

一二左

一三右

一三右

一三右

一三右

一四右

一五右

一五右

一五左

一八右

一九右

一九右

一九左

一九左

二〇右

二〇右

二〇左

二二右

二二左

二二左

二二左

二二左

二四右

二四右

二六右

二六右

三二右

三二右

三三右

三三左

上の部分小文字

三千刹

无禪師之教

則法藏解行

凡下之下

三階進録普不得生浄土

故知仏不為第三階衆生

之処亦衆生

大師以經道滅尽

普教時當來運不留普法

又難

善惣善惡之人

多少拳惣苞

故僕以為

学惠多聞得堅固

賢護經第三卷近後說

仏威神故令彼等

又第二卷說近後言

賢護諸善男子

一切十方清浄仏土

偏証三階者

何為彼言弃

還太過太滅

定不得生

皆有開遮二門

或与濡語

皆歸第一義

普不言道留乃是

不得説誦經者

為対此人造罪已

非本聖教

若以禪師

有十八億那由他人

住邪徑

与過去久遠无量劫來於阿弥陀仏  
本願之中聞仏發願過去久遠善根

一〇右

一〇右

一〇右

一〇右

一〇右

一〇左

一〇左

一〇左

一〇左

一〇左

一〇左

一一右

一一右

一一右

一一左

一五右

一六右

一六右

一六右

一六右

一六右

一七右

一七右

一七左

一八右

一九右

一九右

一九左

一九左

二〇右

二一左

二二右

二二右

二六左

二七右

上の部分小文字

三千刹

无禪師之教

則法藏解行

凡下之下

三階集(進)録普不將生浄土

故知仏不為第三階衆生

之処亦生

大師以經道滅尽

普教時當來運不留普法

又難

義惣善惡之人

多少拳惣苞(包行間小文字)

故僕以為

学(惠解行間)多聞説誦得堅固

賢護經第三卷近後說

仏威神故令彼等

又第二卷說近後言

賢護諸善男子

一切十方清浄仏土

偏証三階者

何為彼言弃

還太過太滅

定不得生

皆有開遮二門

或与濡語

皆歸第一義

普不言道留乃是

不得説誦經者

為対此人造罪已

非本(太トモ説メル)聖教

若以禪師

有十八億那由他人

於邪徑

与過去久遠无量劫來於阿弥陀仏  
本願之中聞仏發願過去久遠善根

欠

偏証三階者

何為彼言弃

還太過太滅

定不得生

皆有開遮二門

或与濡語

皆歸第一義

普不言道留乃是

不得説誦經者

為対此人造罪已

非本聖教

若以禪師

有十八億那由他人

住邪徑

与過観不能滅无量罪



<p>請為解釈也 未得行不退 淨仏国土</p>	<p>二八左 三〇右 三〇左</p>	<p>逗機機有深淺 惑有人法 但如此經所說 不習小乘法何能學大乘 並為逗機不同 於第一義諦 如融金聚 十力四無畏三解脫 亦有勸修 唯勸往生 然以見仏 乃至云云 生盲生癡 現利後利 經文亦應說 於聖人念耶 解脫之因 就此垂終一念也 色无色界善業也 且雜業是欲界人天之業 以此唯知 何者三十益 但自不解經意 縣尉後官 定非定之二業止作兩持 繫閑三界 備弁船舫 今二乘種不生者 為說四諦令其具斷 但名菩薩</p>	<p>五卷二右 二右 二右 二左 二左 二左 三左 四右 四左 四左 九左 一〇右 一〇右 一〇右 一〇右 一二右 一二左 一三右 一四右 二二右 二二左 二三右 二三左 二六右 二六右 二七右 二七右 二八左 二九左 三三左 三三右</p>	<p>請為解釈 未得行不退 淨国土</p>	<p>二四右 二五右 二五左</p>	<p>逗機有深淺 或有人法 只如此經所說 不學小乘法何能習大乘 為逗機不同 於第一諦 如聚金融 十力無畏三昧解脫 亦有勸修 唯觀往生 以然見仏 乃至云云 生盲生癡 現利後 經亦應說 於聖人念 解脫之因 就此垂終一念 色无色界善業 早雜業是欲界人天之業 以此唯知 何者三十 但自不解經 縣尉後官 定非定之行業只作兩持 繫閑三界 備弁船艘 今二乘種不生 為說四諦令其具斷 但名菩薩</p>	<p>五卷一左 一左 二右 二右 二右 二右 二左 三右 三左 三左 三左 三左 三左 八右 八右 八左 八左 八左 八左 一〇右 一〇左 一一右 一一左 一一左 一八右 一八左 一九右 一九左 二一左 二一左 二二右 二二右 二二左 二三左 二四左 二七右 二七左</p>	<p>請為解釈 未得行不退 淨国土</p>	<p>二四右 二五右 二五左</p>	<p>逗機有深淺 或有人法 只如此經所說 不學小乘法何能習大乘 並為逗機不同 於第一義諦 如聚金融 十力無畏三昧解脫 亦有勸修 唯勸往生 然以見仏 乃至云云 生盲生癡 現利後 經亦應說 於聖人念 解脫之因 就此垂終一念 色无色界善業 且雜業是欲界人天之業 以此唯知 何者三十 但自不解經 縣尉後官 定非定之行業只作兩持 繫閑三界 備弁船艘 今言二乘種不生 為說四諦令其具斷 但名菩薩</p>	<p>六卷二右 二右</p>	<p>逗機機有深淺 或有人法 只如此經所說 不學小乘法何能習大乘 為逗機不同 於第一義諦 如聚金融 十力無畏三昧解脫 亦有勸修 唯勸往生 以然見仏 乃至云云 生盲生癡 現利後 經亦應說</p> <p style="text-align: center;">欠</p>	<p>如来減後也 皆已度訖</p>	<p>六卷二左 二左</p>	<p>如来減後也 已度訖</p>	<p>六卷二右 二右</p>	<p>如来減後也 皆已度訖</p>	<p>如来減後也 已度訖</p>
---------------------------------	----------------------------	---	---	-------------------------------	----------------------------	--	---	-------------------------------	----------------------------	---	--------------------	---	-----------------------	--------------------	----------------------	--------------------	-----------------------	----------------------

<p>宝永(義山)版(宝永11 1705) 一行一七文字 一丁一六行</p>	<p>諸仏所師 故彼浄土言无苦者 又曰今言度苦衆生者 此多怨害処 彼云何有八万戸虫 是心作仏是心是仏 本无出処 觀見此相 等无差別 縁事外觀衆生心見分心 如來加被 設我得仏 下品中生重罪前品 一言勝者 最尊最勝 命在斯須 何得懷疑也 於汝意云何 還是凡夫所構</p>	<p>九右 一〇左 一一右 一二右 一四右 一五右 一六左 一八左 一九右 二二右 二六右 二八右 三一右 三一右 三一左 三三右 三三左 三五左</p>	<p>万治版(万治二 1659以前) 一行一八文字 一丁一八行</p>	<p>諸仏所師 故彼浄土言无苦也 釈曰今言度苦衆生者 此多怨害処也 復云何有八万戸虫 是心是仏是心作仏 本无出趣 見此相 等无分別 縁事外觀衆生見分心 如來 設我得作仏 下品中生重罪前品 言一勝者 最尊勝 命在斯頃 何得壞教也 於意云何 還是凡夫所構</p>	<p>七左 八左 九左 一〇左 一一左 一二左 一四右 一五左 一六右 一八右 二一左 二二左 二三左 二五左 二六右 二六右 二七左 二七左 二九左</p>	<p>桑葢了的筆(1608~1616) 一行一七文字 一丁一八行</p>	<p>諸仏所師 故彼浄土言无苦也 釈曰今言度苦衆生者 此多怨害処也 復云何有八万戸虫 是心是仏是心作仏 本无出趣 見此相 等无分別 縁(行間)事外觀衆生見分心 如來 設我得作(行間小文字)仏 下品中生重罪前品 言一勝者 最尊勝 命在斯頃 何得壞教也 於意云何 還是凡夫所構</p>	<p>建長版(建長二 1250) 一行一七文字 一丁二二行</p>	<p>諸仏所師 故彼浄土言无苦也 釈曰今言度苦衆生者 此多怨害処也 復云何有八万戸虫 是心是仏是心作仏 本无出趣 見此相 等无分別 縁事外觀衆生見分心 如來 設我得作仏</p>
<p>威如妙釈 悉皆平等 屬仏不同 言多者言用多也 起不善業 斬截其身 偃臥不定 如被杖楚 及諸刀林 此或是來迎 朦朧似観也 指彼華開之時 亦遲下品中生六却四十三劫也 重罪業勢力</p>	<p>七卷一右 二右 二右 二左 六右 七右 七右 七右 七左 九右 九左 一〇右 一二右 一四右</p>	<p>威如妙釈 悉皆平等 屬師不同 言多用也 起不善心 折截其身 偃坐不定 如被杖楚 及諸刀山 此或是仏來迎 朦朧似観也 於彼華開之時 亦遲下品中生四十三劫也 重罪業勢力</p>	<p>一右 一左 一左 二右 五右 六右 六右 六右 七左 八右 八左 一〇右 一一左</p>	<p>威如(行間小文字)妙釈 悉皆平等 屬師不同 言多用也 起不善心 折截其身 偃坐不定 如被杖楚 及諸刀山 此或是仏來迎 朦朧似観也 於彼花開之時 亦遲下品中生四十二劫也 重罪業勢力</p>	<p>重罪業勢力</p> <p style="text-align: center;">欠</p>				

或未念仏不可滅 有其勢力 及涅槃經 爾時文殊師利 五逆誹謗者 亦是王法罪人 二十一種 自心明了見一切仏得嚴淨仏刹 无智俗士 將非此法是虛偽矣 直心直行 三昧鏡中 來現鏡中 何所疑哉 決其眼膜 身輕氣猛行駛 以是因縁 望前隨喜 仏於起座 有二十四人 有一比丘尼	一六右 一六左 一八左 二〇右 二一左 二三右 二三左 二四右 二五右 二五右 二六右 二六右 二六左 二六左 二九右 二九左 三三左 三三右 三四右 三四右 三六左 三七右 三七右	念仏不可滅 有勢力 故涅槃經 時文殊師利 五逆誹謗 亦是王法罪人 二十五種 得嚴淨仏刹 无知俗士 將非或学此法是虛偽矣 真心直行 三昧鏡中 來現鏡中 何須疑哉 決其眼膜 身輕氣猛行駛 以此因縁 望前隨喜 仏於座地 二十四人 有比丘尼	一三左 一三左 一五左 一六左 一七左 一九右 一九左 一九左 二〇左 二〇左 二一左 二二右 二二右 二二右 二四右 二四右 二四左 二四右 二八右 二八右 二八右 二八右 三〇左 三〇左 三〇左	或念仏不可滅 有勢力 故即涅槃經 時文殊師利 五逆誹謗 亦是王法罪人 二十五種 得嚴淨仏刹 无知俗士 將非或学此法是虛偽矣 直(真ノ字行間ニアリ)心直行 三昧鏡中 來現鏡中 何須疑哉 決其眼膜 身輕勇猛行駛 以此因縁 望(前ノ字行間小文字アリ)隨喜 仏於座地 二十四人 有多比丘尼	念仏不可滅 有勢力 故涅槃經 時文殊師利 五逆誹謗 亦是王法罪人 二十五種 得嚴淨仏刹 无知俗士 將非此法是虛偽矣 真心直行 三昧鏡中 來現鏡中 何須疑哉 決其眼膜 身輕氣猛行駛 以此因縁 望隨喜 仏於座地 二十四人 有比丘尼
---	---	--	---	--	---

インターネット公開許諾のない文章には墨塗り処理を施しています。